

JOFIOSAKA Vol.30

2012年(平成24年)9月15日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 編集責任者:萱間修(広報部)



環境への責任、釣りをする自由、幸福追求権を理解して頂くための今後の活動について

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

大阪湾の海が、あるいは天候も含めてあまり経験したことのない、ヘンな様子に思われるこの夏でした。

お盆の直前から吹き始めた南東の風で、大阪湾に苦潮がまわりました。特に泉北～泉南にかけての一帯の生き物たちが長期にわたって被害をうけたようです。

幸いなことに、直立護岸に附着していて、苦潮で剥落したイソフジツボの層は、9月の初めには微細な層が復活していることを確認してやれやれです。これでまた、秋が深まればチヌの落とし込みも復活することでしょう。

大阪湾奥部の潮の停滞は、関空島の建設にはじまり、神戸空港、淀川河口の新島建設を経てますます顕著な現象になっています。そして大阪湾はみどころ明らかに美しくなっていますが、そこに住む生き物たちの減少は、もはやだれの目にも明らかです。

大阪港内、ことに南港魚釣り園や新府庁のすぐ目の前でしばしば行われる底引き網の操業やシラスの乱獲ばかりが原因ではなく、もっと権限的な誤りを、わたしたちの年代が惹き起こしたのではないかといった空恐ろしい思いを持つこともしばしばです。

単に行政の計画性の杜撰さが原因だと攻撃するだけでいいのか、それを含めて一般市民にもっとできることはなかったのか。つまりわたしたちは利便性のみを追求してきた社会が侵した環境破壊の当事者でもあることを改めて認識しておく必要があるわけです。

そうした考え方の基礎にたって開始した「大阪湾水質調査」ですが、試薬の購入費にもためらいがちになる苦境の中で、ややトーンダウンした感があります。ここはもうひと踏ん張り、海の生き物たちに成り代わって受難の様子をデータとして伝え残す役割を再認識してがんばりたいと皆様に協力をお願いします。

次にうれしいお知らせです。堺2区の旧新日鉄波止西側に工事が進んでいた防災緑地の一部が「堺海つりテラス」として完成し一般に開放されます。(右の写真)

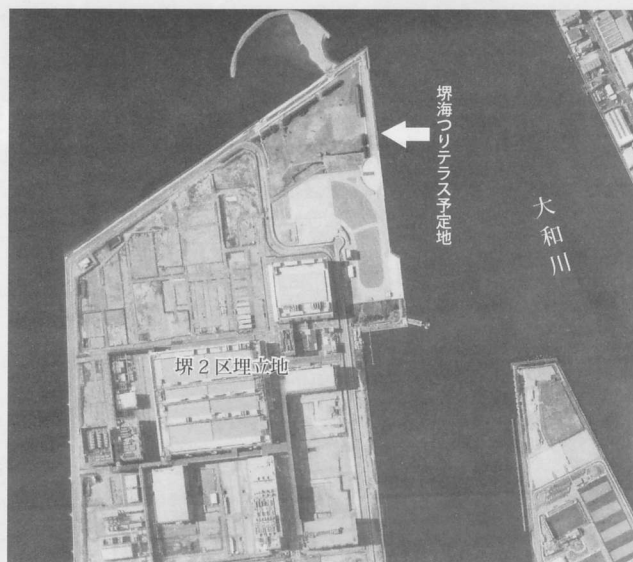
国交近畿整備局が実施していた工事が9月末までに完成し、検査を受けた後、大阪府に移管され、それが堺市港湾局に管理を委託されるという手順を踏んで、10月7日を目途にオープンされる予定です。朝7時から夕方5時までという時間帯はいささか物足りないのですが、全長300mが駐車場を含めて一切無料。ただし、事故やゴミを含めてすべて利用者の「それぞれの責任」によってというスタンスが大変ユニークです。大阪らしい、そして中世からの伝統を持つ自由都市堺ならではの試みと賛辞を贈りたくっています。これからの釣り人との連携が重要ですが、とりあえずJOFI大阪

の皆様には、適宜にパトロールして現状報告を送っていただくとともに水質検査もお願いしたいものです。

それとは別に、来年2月に開かれる恒例のフィッシングショー大阪に、はじめて国土交通省近畿整備局コーナーの展示が計画されています。昨年から始まった大阪府海域美化安全協会、大阪湾環境保全協議会(いずれも大阪府の出先機関)それに以前からの第五管区海上保安本部とあわせ、海や川に関連する行政機関がフィッシングショーに顔を見せ、釣り人との意思疎通をはかるという試みの体制ができつつある明確な証拠でしょう。

もちろん主催者である大阪釣り具協同組合の好意もあって実現したわけですが、わたしたちJOFIのメンバーもこれまでのおつきあいやいきがかり上現場でお手伝いする必要があらうかと思えます。このことにも協力をお願いします。

それはさておき、気になるのは大阪市における「南港魚釣り園廃止」の動向です。もし具体化する場合は前もって釣り人側の意見聴取が必要不可欠である旨、申し入れてあり、そのままになっています。大阪市の海辺が100%人工護岸にかわった時によりやく相互理解の上で現在の魚釣り園が作られた経過をふまえて改めて議論が必要です。それにつけても公有水面で釣りをする自由や幸福追求権などといった、一部の公務員層にとって理解不能であろう議論を交わすのは気の重い話です。なんとか現状維持で進んでいただきたいものです。



報告1

第8回ほっとたらあかんやん大阪湾フォーラム (H24/3/4)

大阪湾見守りネット主催の大阪湾フォーラムは、3月4日、須磨水族園にて開催。アマモ場の再生やワカメの育成など、学生を中心とした世代の環境への取り組みが発表され、環境教育への広がりなど、市民団体の連携の強化を図る内容となりました。長年の活動と様々なバックボーンの人たちの“つながり”を重視する姿勢は評価されると思います。

小浜水産高校がアマモ場再の取り組みについて発表。



報告2

南港魚釣り園運営協力・魚拓教室・釣り大会 (通年及びイベント開催日)

大阪南港魚釣り園は、2012年4月3日の爆弾低気圧による大波で破損、一時閉鎖することとなりました。約1ヶ月後の5月7日から関電側の高台120mが一部を開園し、その後、6月28日に中央部から北側までを、8月7日にはほぼ全面を補修完了することができました。市民の釣り場を元通りに戻してもらえるのはありがたいことです。

魚釣り園でのインストラクター活動ですが、施設が全面改修できるまでは大きなイベントは控えて、従来の巡回指導と水質調査、魚拓教室(月2回程度)を実施しました。魚拓教室は、自分で釣った魚を自分で魚拓に取るというアナログの楽しさが受けたのか、たいへん好評で参加者を増やしています。

また、8月26日には「大阪府民釣り大会」(大阪府釣り団体協議会主催)が開かれ、南港魚釣り園、JOFI大阪も協力。多くの来場者を楽しんでもらいました。



小学生の女子に人気の魚拓教室。



夏休みに入ってイワシやコノシロなどが釣れ出して、釣り場は連日賑やかになりました。



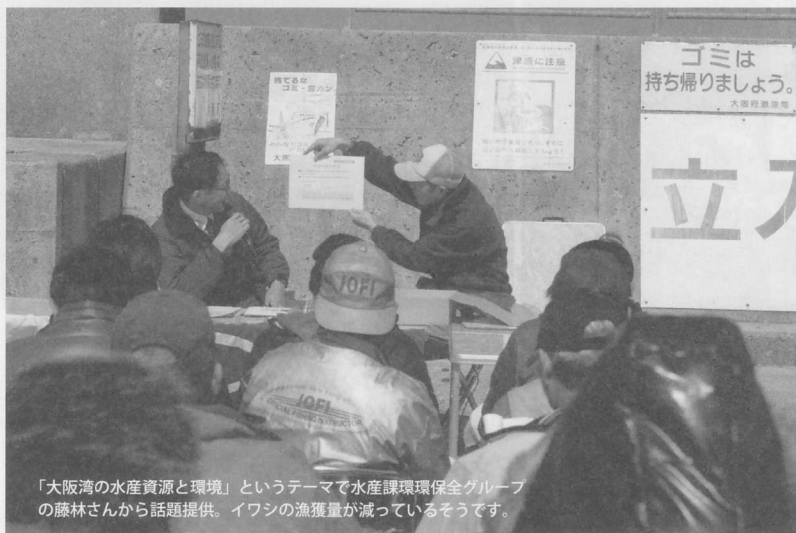
巡回釣り教室は、毎週日曜日に実施。

大阪府民釣り大会で「安全講習」開催。



水質調査は毎回見学者を集めて楽しく実施しています。





「大阪湾の水産資源と環境」というテーマで水産課環境保全グループの藤林さんから話題提供。イワシの漁獲量が減っているそうです。

して昔から府民に親しまれている場所です。

海のゴミ掃除は毎回本当に大変な作業です。しかし苦勞が多い分、清掃後の充実感も大きく、また、現地の釣り人も毎回手伝って下さいますので、とても気持ち良く掃除をさせていただいています。JOFI 大阪インストラクターだけでなく、ヒューマンフィッシングの学生・卒業生、地元泉南のルアーアングラー、京都・奈良からも毎年このイベントに参加してくれる方もいます。

また今回は「清掃活動＝環境を考えるイベント」と捉え、インストラクター研修会を同時開催しました。平成23年度大阪湾水質調査の結果報告、大阪湾環境保全協議会の藤林事務局長による「大阪湾の環境と水産資源について」の講話など、大阪湾の現状や取り組み方を勉強しました。ほかにも、釣具バザール、暖かい

お食事など、楽しむ企画もあり、盛大に終えることができました。

参加者は49名+犬2匹。ゴミは2トントラックいっぱいになるほど回収し、大阪府と泉佐野市の協力により処理しました。ご参加いただきました皆様、ご協力いただきましたメーカー、ルアービルダーの方々にお礼申し上げます。

大阪湾 53PickUp! 清掃活動は、2006年10月に西宮港・貝塚人工島・深日港で第1回目をスタートし、その後、芦屋浜・南港・泉佐野港・二色浜・せんなん里海公園など、ゴミの量や意識調査などを行ないつつ取り組んできました。第6回目は2011年に実施の予定でしたが、東北大震災の漁業募金活動のために、2012年3月25日に延期しました。

開催場所は泉佐野港の旧フェリー乗り場で、近場の好釣り場と



チャリティー釣具バザールもこのイベントの楽しみです。



防波堤の根元に大量のゴミ。みんなで片付けました。

働いて (清掃活動)
楽しんで (釣り具交換会)
学んで (大阪湾の水産と環境のお話)
食べて (暖かいトン汁とご飯)
今年も素敵な仲間が集まりました!



来年もやります! よろしく。ワン!



温かい豚汁と五目飯を提供していただきました。美味しかったです!

姫路遊漁センター・こどもの日釣り教室&ミニ大会 (H24-5/5)

姫路市立遊漁センターでは、5月5日「こどもの日釣り教室&ミニ釣り教室」を開催しました。参加者は子供だけで約60名。遠くは滋賀県や奈良県からも参加者があり、釣り初心者のご家族にインストラクターがコーチをしました。釣り方だけではなく、ゴミの処理や安全確認などもさりげなく指導します。表彰式では、参加者全員に賞品を差し上げました。限られた小さな釣り場をみんなで仲良く使うことができたご褒美です。(報告：吉田)



天気もよく、魚もガシラ、キス、アイナメなど10種類以上釣れて楽しかった！

みらい園・のぞみ園 春の釣り教室 (H24-4/23、5/20)

大阪市立の福祉施設「弘済みらい園・のぞみ園」での釣り教室、今回は淀川ワンドに住む魚をテンカラ釣りで狙ってみようという企画です。

4月24日の座学では、「淀川ワンドの成り立ちと生態」「釣りのルール・マナーと安全」「釣り場の環境とゴミ問題」「毛バリを作ろう」を講義し、実際に子供たちに毛バリを作ってもらいました。自由な発想のきれいな毛バリができ、作った毛バリは子供らの名前を書いたケースに保管しました。

5月20日の実釣は淀川ワンドにてブルーギルを狙います。インストラクターは7時に集合、テントを設営し、釣ったブルーギルを調理するスペースもセッティング。子供たちは9時過ぎに到着。参加した子供は13名で、スタッフは13名以上おり、マンツーマンで面倒がみれる体制です。近藤支部長からの挨拶のあと早速釣りを開始。あそこが釣れてる！とみんなが情報交換し、釣れるポイントはすぐにぎやかになります。結果、午前の部だけで調理しきれないくらいの大釣りができました。

昼食はお弁当プラス、ブルーギルの天ぷら。おいしい！おいしい！とあちこちで声が上がりました。午後からも、飽きることなく釣りをしたり、草むらでトカゲやてんとう虫を捕まえたりして楽しみました。

午後2時半、この日のもうひとつのイベントに移ります。それは全員が力を合わせての釣り場の大清掃です。ペットボトルから、弁当トレイ、ビニール袋など大量に集まりました。子供たちが「はじめてよりだいぶきれいになったね！」と嬉しそうに話していました。

参加した子どもたちも、教える側も、現代の水辺環境をダイレクトに感じ、考える機会になったのではないのでしょうか。(報告：中島、室井、田隅)



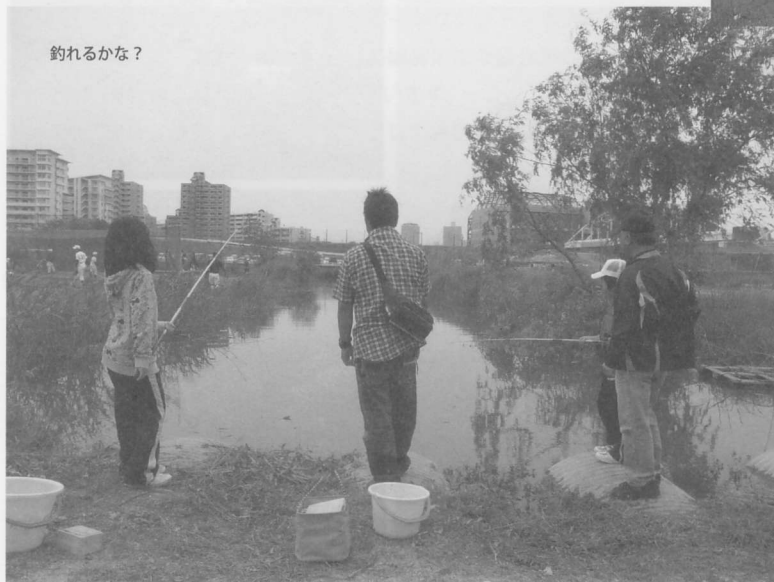
ワンドって何だ？



毛バリを作ってみよう。



清掃活動もがんばりました。



釣れるかな？



都会の近くにも自然はいっぱい！
魚や虫を捕まえ、鳥たちを見て遊びました。

第5回大阪湾生き物一斉調査（堺2区生物共生型護岸）（H24-6/3）

6月3日、堺2区生物共生型護岸にて、NPO 法人釣り文化協会と社団法人大阪自然環境保全協会が合同で「第5回大阪湾生き物一斉調査」を実施しました。

調査に先立ち、5月26日、大阪市立自然史博物館にて今回の共通テーマである「外来種」についての勉強会を開催。なぜその種が繁殖するのか、どのような影響が出るのか、観察することの重要性を学びました。

当日は朝5時から9時までを第1部として「釣りによる調査」を行ないました。チヌ、スズキ、アイナメなどが釣れました。

9時半から水質調査講習を行ないました。当日の水質データ＝透明度：1.7m／水深 4.15m／黒っぽい濁り／水温：表層 19.5℃、底 18℃／底の溶存酸素量 (DO) 6mg/l／表層の PH7.5／塩分濃度：表層 25‰、底 30‰

11時～12時半、海岸生物研究会の大谷道夫先生にご指導いただき、採取調査を実施しました。参加者には大阪自然環境保全協会のスタッフ12名が付き添い、参加者の興味を引き出す素晴らしいフォローの仕方で、たいへん勉強になりました。

私たちが調査した場所は生物共生型護岸となっており、人工的に

作った干潟と岩場で構成されていますが、観察を続けるごとに種類が増えています。垂直護岸の埋立地のあり方を考える貴重な資料となると思います。なお、結果発表会は9月22日、大阪市立自然史博物館にて開催します。



カレイ、マハゼ、シジミ、ゴカイなど、28種類が採取されました。



釣りをするだけの調査も。



海岸生物研究会の大谷道夫先生が、多彩な生物の特徴を教えてくださいました。



この人工干潟の実験施設が、将来の埋立地の自然環境を変えてくれるかもしれません。

淀川わんどクリーン大作戦に参加（H24-7/21）

7月21日、前日の雨もあがり「淀川わんどクリーン大作戦」に参加しました。朝から大勢の人々が城北ワンドに集合。主催者の国土交通省淀川河川事務所による開催の挨拶、注意事項の説明の後、参加者それぞれ一斉にゴミ拾いを開始します。今年は時々豪雨による水位の上昇があり淀川の水位が平年よりは高く、それが原因かどうか定かではありませんが、ゴミの量が昨年までと比べると非常に少なかった。（報告：田隅）



今年で26回を迎えるイベントです。

報告8

第 31 回大阪湾チヌ稚魚放流 (H24-8/23)

日本釣振興会大阪府支部、大阪府釣り団体協議会、遊漁船組合などが協力して「大阪湾のチヌ稚魚放流」を行ないました。30 年の以上のチヌ稚魚放流で、チヌがよく釣れる大阪湾になりました。今後はチヌ放流以外の資源増殖の活動をする意見もありますが、チヌというのはシンボルであり、釣り団体が一致団結して活動が続けて来た事に大きな意義があります。



報告9

南港魚つり園チヌ稚魚放流 (H24-8/18)

南港魚つり園指定管理者ハウスビルシステムによる「チヌ稚魚放流」は、8 月 18 日に実施。5 月 6 日孵化に成功したチヌ稚魚 10 万匹のうち 4000 尾を来園者の子供たちに手伝ってもらって放流しました。大阪府水産技術センター・森場長からチヌの生態と大阪湾のお話もお聞きして、良い経験をしていただけたと思います。大きくなって帰って来てね！



自分で魚を放流した経験は、きっと将来役立つでしょう。

報告10

海上航行安全講習会の開催

全国遊漁船業協会の解散に伴い、全日本釣り団体協議会の事業として引き継ぎました「遊漁船登録業者講習（海上航行安全講習会）」が、2012 年 8 月 28 日、関西エアポートワシントンホテルにて開かれました。大阪府水産課と大阪府海域美化安全協会が共催。大阪府内の遊漁船業登録業者を対象にしています。

釣り人団体が釣船の指導的な立場として講習を主催するのは初め

てのことになります。が、今後はより現場の実状や問題点を話し合える機会としたいと来田代表から挨拶がありました。



報告11

第 16 回 JOFI 大阪定期総会 (H24-3/18)

第 16 回定期総会は、3 月 18 日都島区の大阪リバーサイドホテルで開催しました。代表の挨拶では、釣り業界の置かれている状況や釣りインストラクターの使命、釣りの自然環境調査の件などについて話がありました。議事は辻哲男議長により進行。事業報告、事業計画役員に関する件など決議。終了後、山本忠男事業部次長の司会で懇親会を開催し、来賓や新加入者との懇親を深めるとともに、今後の積極的な活動と再会を約束して終了しました。(報告：物部)



南東亜細亞四島を行く (四)

昭和二十年十二月七日、第十二根據地隊より通信連絡あり。「十二日商戦すみれ丸がレンバン島へ輸送に当たるためカーニコバル島に停泊する」との電文であった。シンガポールには第十方面艦隊司令部があり、南方周辺の作戦他、統括を行なっていたのだが、敗戦後は連合軍英軍の指揮の下、種々指示に従い、配船、引揚げ、帰還他各方面に通信連絡を行なっている。直ちに受信電報を十四警本部に届ける。司令植田大佐は不在、戦犯としてシンガポールへ。後任に機関隊隊長大西少佐が代行の任にあたっていた。

まず各隊二分の一に。うち建設経験者及び軍属の設営隊が、全員先発隊として行くことが決定。十四日、各先発隊はマラッカ海面に集合。英軍の検閲後、大発艇にてすみれ丸に乗船し、出航。レンバン島へ。

以後残留各隊、日課予定表通りを遂行。通信隊長が先発隊とともに出発したので、掌(しょう)通信長が通信の指揮をとることとなった。十二月末、各隊二名が主計隊に集合。最後の餅揚げをした。

二十一年一月一日、主計隊飽炊所に、食卓番三名が行って食事を貰って帰る。各食卓に配食。「食事用意良し」「着け」で「頂きます」。正月の雑煮は一年振りである。赤道に近い所での餅は美味しいには程遠い味である。だが贅沢は言えない。食べ物があるだけでも有難い。他方面離島では餓死者多数と聞いている。有難いことに第十四警備隊の前身である呉鎮第八特別陸戦隊が、昭和十八年夏、アンダマンニコバル諸島カーニコバル島に上陸、十年計画の食料を陸揚げし、糧食庫には多くの食料が備蓄されていた。私達は幸運であった。

以後、五直配置の通信任務に。非番は全員農耕に従事。但し当直以外は休みで、日曜も休み。掃除、洗濯、自由である。何れにせよ制裁罰がないのが唯一の安堵である。良識、常識のない、非人道的行為を行じた上官は猛反省だろうと思うが、さに非ず。いずれ天罰

が下されるだろう。人生で絶対許せない奴「仁丹」である。仁丹は渾名である。

以後、日課予定表通りを遂行。二月中旬、十二根より電報あり「全員レンバン島に移駐せよ」と。十二根と通信連絡し、配船の日程が決定。

愈々島を離れる時がきた。通信隊としては十二根と再開を約し、最後の連絡。送受信に終止符を打った。そして後、英軍の指示に従い、食料は全量レンバン島に移送すること、通信隊に対しては、送受信のマスド替わりの椰子二本に張つてある電線を切断せよである。

木に登る適任者がいないので、仕方がないので小さい頃から山川と自然を友として育った、ターザンが大好きな私が切断することとなった。

まずパンチに紐を括つて肩に掛けて用意する。椰子の高さは約十七メートル程だ。椰子一枚で登った。椰子の木の皮は堅い。それに凸凹の連続

だ。早く終わらないと、他の隊員は海岸に集結しているだろう。私一人のために機関隊のトラックが終わるのを待っている。私も必死である。熱い日差しの中、何とか登り、一休み。パンチで裸線を巻き戻す。かなりの数戻した。最後が外れた時の衝撃、ビーンは凄かった。ものすごい揺れであった。パンチを持ったまま、木にしがみついた。揺れが納まった後ゆっくり下りた。汗がびっしょりである。

ドラム缶に吞み水がかなり残っていた。中に入って体を洗った。胸が痛い。水がしみる。



椰子の木に擦れて皮が剥けている。急いで体を拭いてドラム缶を押し倒した。水を入れたまま残しておくと、ボウフラが湧き、マラリヤ蚊が発生するからだ。そして衣囊をトラウクに乗せた。

これで通信隊送受信所兵舎とも別れである。私は海岸へ急ぐ。到着後、服装を整えて整列。検閲後、大発艇にて移送船に乗船。まず一路アンダマンポートブレアへ向かい、寄港後、レンバン島へ。

二月末の印度洋は、波静か鏡の如し九月の海とは雲泥の差である。マラッカ海峡を経てシンガポール港へ。カーニコバルを出て六日目、午後には停泊。夜に入り、戦勝国の各艦船は満艦飾である。その数、見事さには、圧倒された。まことに勝者と敗者の相違である。

翌朝レンバン島に向かう。赤道直下の島と聞いている。そして午後遅く停泊。大発艇にてレンバン島棧橋接岸上陸。各自衣囊を担いで約三十分、急造の道を各隊兵舎へ。後、若い兵員は糧食他運搬に参加。そして、英軍の命により、兵員一人あたり二百平米(六十坪)開墾することが伝えられた。この割り当てが完了すれば、内地に帰還が許される。毎日朝八時から午後五時まで、各自剣先スコップ一丁で耕すのである。

赤道直下の作業は大変である。椰子とタオル一枚、他に三種軍帽のみ。雑木は直ちに焼却されるので、飛び火が汗の体に飛着する。熱い。耕した後は、支給品タビオカの木を二十センチくらいに切つて、片方を斜めに切り、斜めに土中に差し入れる。これは薩摩芋の蔓を植えると同じようにやる。後はスコールが降れば芽を出す。タビオカは今では澱粉に加工されて、バナナと同様に日本にも輸入されている。

る。

レンバン島棧橋の右側には入江があり、私達通信隊の兵舎近くには源流があり、ここに各隊の残飯も捨てるのであるが、暫くして夜になると、捨て場に何か大きな音がする。明かりがないので何かはわからない。相談の結果、機関隊で大きな釣り針を造って貰って、ロープで括つて、餌は鼠捕りで捕獲した鼠一匹針に着けて、残飯の上に置いた。ロープの元は大きな木に縛った。翌日の朝、残飯を捨てに行つた。ウワー！吃驚仰天である。何と大きな鰐が掛かっていたのだ。直ちに報告後、全面水泳禁止となった。主計隊の隊員が剥製にして持ち帰ったと後で聞いた。

日課予定表通りを遂行する。作業は雨の日、スコールの時間帯は休みである。雨に濡れるとマラリアの高熱が出るからだ。薬としてはキニーネというよく効く薬がある。この薬のおかげで大勢の命が助けられた。私には通信隊で四人の同期同年兵がいた。同じ兵舎で寝食を共にし、語らい、助け合い、心強い限りだ。これぞ同期の櫻である。

五月に入つて「復員予定者トシテ内地帰還ヲ命ズ」第十四警備隊と辞令が下りた。五月末、通信隊、兵舎前に整列。残留者と別れの挨拶をして、各自衣囊を担いで棧橋へ。大発艇にてアメリカ船籍リバ艇へ。

二十一年六月十四日、名古屋港入港。十五日「復員ヲ命ズ 十四警」で復員。

臨時列車に乗車し、京都、大阪、岡山、宇野、宇高連絡船で高松。讃岐線で琴平へ。昭和十八年五月十九日に琴平を出発してから、約三年一月少しでの帰郷である。琴平駅で友人の駅員にお願いして衣囊を家まで自転車を送り届けてもらうことにし、私は歩いて家に帰った。

ちょうど家に着いた時、母親がいて、私の顔を見るなり「勇、お前生きたんか」当時私十九才でした。

大西 勇 (JO F I 大阪北摂豊能支部)

【お知らせ】

「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」について

「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」は、2011 年度に検討会を重ね、2012 年 3 月 28 日に案として発表。その後 30 日間パブリックコメントを募集し、市民の意見を聴聞した上で、6 月中の日付で各自治体港湾局に送られました。

港湾の釣りの自由については、釣り人と管理者との長い歴史があります。今から 20 年前、平成 3 年にも「防波堤等の多目的使用について」という運輸省港湾管理課長通知が出され、海洋性レクリエーションの多様なニーズに応えるように計られ、釣り公園などが造られましたが、一般の港湾施設については逆に管理が厳しくなったところがあります。今回はその時の続きで、特に防波堤について、「市民に供されるべきものかどうか」を新たに協議していこうという主旨です。

法の上で、「行政財産は、社会公共の福祉を維持増進する目的を持って公衆の利用に供せられるものである（国有財産法）」「利用条件を備える利用者に対しては平等に利用させることが原則となっている（地方自治法）」と規定されていることが根拠となっています。

大阪市においては、平成 20 年、大阪港立入禁止条例が施行さ

れようとした時に、それまで話し合いを持たなかった釣り人と行政が「協議会」を設置し、立ち入りできる区域とその利用ルールを定めました。今回のガイドラインにはその大阪方式と呼ばれるルール作りの手法が盛り込まれています。

今回のガイドラインによって、今後港湾当局と協議会を開く道ができたわけで、たいへん喜ばしい事と

言えます。ただし、海上保安庁においては尖閣諸島への対応等と時期的に重なっており、釣り人への過度な圧力が加わる事がないように注意深く見守る必要があります。（ガイドラインの正式書類は現在国土交通省のホームページに出ていませんので、意見公募時の内容を参考にして下さい。）

防波堤等の多目的使用に関する
ガイドライン

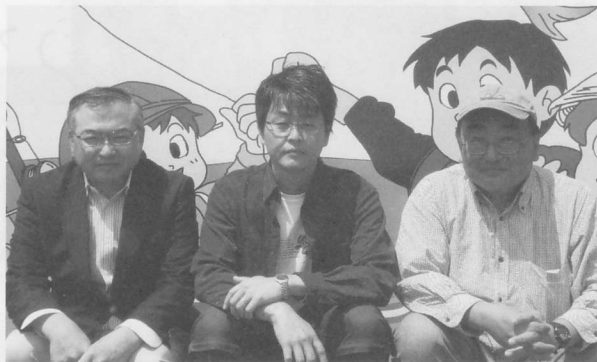
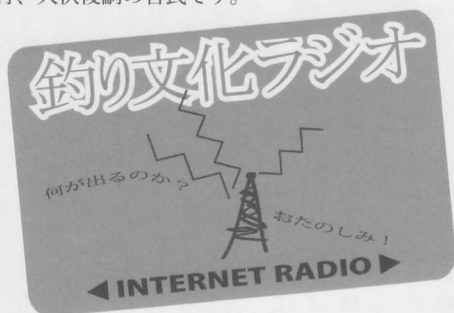
(案)

平成 24 年 3 月

国土交通省港湾局

インターネットラジオ、始めました

釣りの四方山話から社会問題まで、様々なテーマを思いつくまま取り上げるインターネットラジオ「釣り文化ラジオ」を始めました。JOFI 大阪および釣り文化協会のホームページにスイッチがありますのでご利用ください。進行役を務めるのは、右から小川俊幸、室井正行、犬伏俊嗣の各氏です。



<http://jofi-osaka.com> JOFI 大阪 ホームページ

<http://turibunka.or.jp> 釣り文化協会 ホームページ

【平成 24 年度後半の予定】

9 月 15 日 (土) ▶「環境美化活動 (男里川ハゼ釣り調査)」於：男里川尻、7 時～12 時 30 分／参加費無料／主催：泉南市 ABC 委員会／参加者 150 名以上／ハゼ釣り指導、安全指導

9 月 22 日 (土) ▶「第 5 回生き物一斉調査結果発表会」於：大阪市立自然史博物館、12 時 30 分～17 時 30 分／主催：大阪湾生き物一斉調査実行委員会／博物館入場料 300 円／参加者 100 名／環境調査活動学習およびポスターセッション参加

10 月 6 日 (土) ▶「中学生親善魚つり大会」於：舞洲緑地シーサイドプロムナード C 護岸 (釣り会場)・ロッジ舞洲 (交流会会場)／主催：大阪市青少年指導員連絡協議会／参加者 150 名／魚つり指導、生態観察指導、水質調査講習

11 月 4 日 (日) ▶「秋の南港釣り大会」於：南港魚つり園／主催：釣り文化協会／参加費無料／釣り指導、魚拓教室、釣り大会及びマナー向上安全講習 (同日姫路遊漁センターでも釣り大会開催)

12 月 22-23 日 (土日) ▶「公認釣りインストラクター関西地区講習会・試験」於：ヒューマンアカデミー大阪校／主催：全日本釣り団体協議会／実施運営

1 月 12 日 (土) ▶「遊漁船業主任者講習会 (大阪府地区)」於：ヒューマンアカデミー大阪校／主催：全日本釣り団体協議会／実施運営

2 月 2-3 日 (土日) ▶「フィッシングショー大阪 2013」於：インテックス大阪／主催：大阪釣具協同組合／大阪府・国土交通省環境啓蒙合同ブース協力、大阪府釣り団体協議会ブース協力、釣り入門コーナー協力

3 月 24 日 (日) ▶「第 7 回大阪湾 53 ピックアップ 清掃 & 環境向上大会」於：泉佐野港／主催：釣り文化協会・水辺基盤協会／協力：大阪府・泉佐野市ほか／参加費 500 円／大阪湾の環境を考えるイベント、チャリティー釣具バザー、清掃活動

(H25 年 3 月に JOFI 大阪定時総会の予定。なお、予定は変更されることがあります)